

5. 航空宇宙技術研究所が果たすべき役割

航技研には、関係行政機関に重複して設置することが多額の経費を要するために適当でない大型の施設・設備が集中的に整備されており、航空科学技術分野の共同利用機関的な役割を果たしてきた。また、我が国唯一の航空科学技術に関する総合研究機関として、基礎的・基盤的な研究開発、また飛行実証など実用化に向けたプロジェクトを推進するとともに、国産旅客機 YS-11 や航空機用ジェットエンジン V2500 などの開発における技術協力等を通じて、我が国における航空科学技術の維持向上を図ってきた。現在も航技研がこれらの役割を果たすことについて民間企業等からの要望は強く、今後とも、その役割は重要である。

今後、航技研は、新機関となることを契機に、従来培われてきた産業界、大学とのネットワークをさらに発展させ、産業界と大学との橋渡しの役割をすることが求められる。産業界は、製品化の観点から、システムとして統合された技術を必要としている一方、大学での研究は細分化・専門化されており、産業界の技術者と大学の研究者で技術課題を共有することは難しい。例えば、航空機の舵面等を動かすアクチュエータ²¹ひとつを取っても、機械工学、電子工学、材料工学、制御工学等に関する技術・知識が集積されている。航技研は、中核的な研究機関としての立場から、産業界と大学との間に立ち、産業界において解決が必要とされる技術課題を細分化し、大学で取り組むべき研究テーマとして発信する役割を果たすことが必要である。逆に、大学で生れた自由な発想に基づく研究成果のシステム化を図り、産業界での製品化・実用化に資するような研究開発を行うことも求められる。なお、航空科学技術の裾野は非常に広いことから、航空分野以外の学科・研究室とも連携・協力を深めることが不可欠である。

また、航技研では、設立以来、長年にわたって航空技術に関する基礎的なデータの蓄積を図るとともに国際的な情報の収集に努めてきた。これら进行分析し、積極的に外部に発信することが航空科学技術の将来の方向性を設定する上で不可欠であり、かかる役割を果たすために、これまで以上に技術情報の収集分析及び基礎データ蓄積を図ることが求められる。

²¹ アクチュエータ：油圧系統または電気系統のエネルギーを仕事（力）に変える装置。油圧モーターまたは電気モーター類の総称。航空機においては、方向舵、補助翼など可動部分の制御に使用されることが多い。